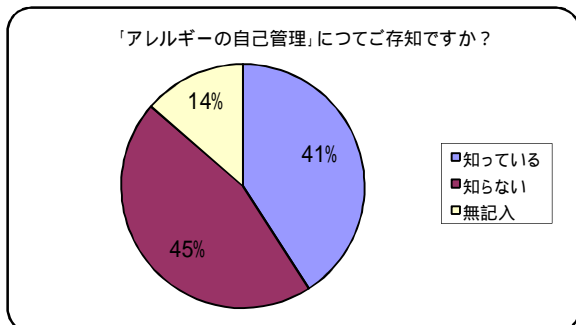


2009年アレルギー週間講演会における患者さんの「自己管理」に関するアンケート

厚生労働科学研究費補助金事業

「ユビキタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究」

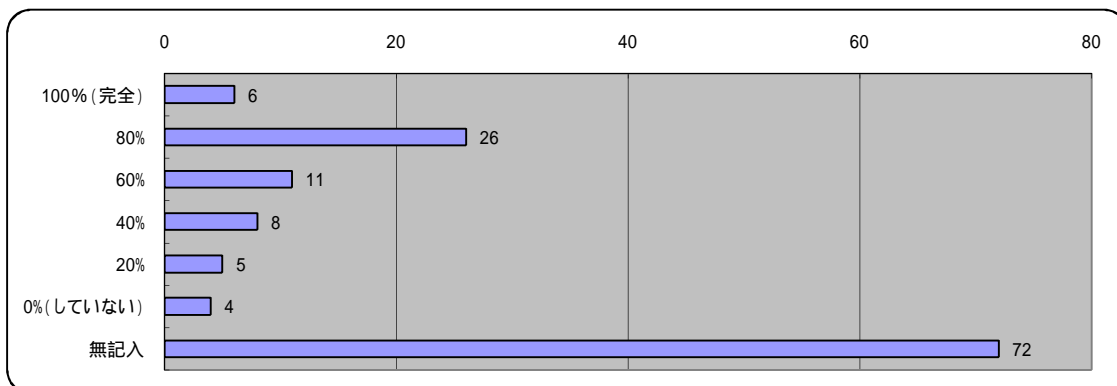
設問1. 「アレルギーの自己管理」についてご存知ですか？



合計 132 人

その他意見: どちらともいえない

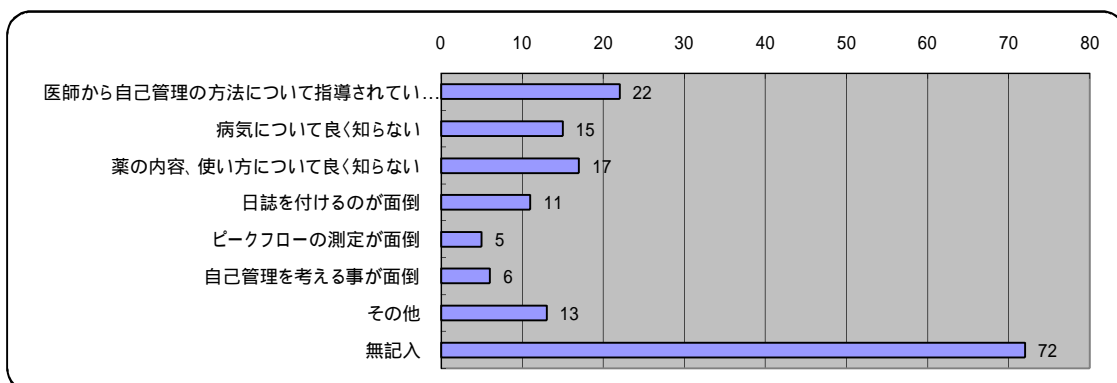
設問2. 設問1. で「知っている」とお答えの方にお伺いします
どの程度、医師に指導に従い自己管理を実行できていると思いますか



「知らない」、「無記入」の方も回答している

その他意見: 95%、「自己管理」の意味が判断出来ない、100%管理でも症状は辛いです

設問3. 自己管理が難しい理由を で囲んでください(複数回答可)



その他 ・アレルギーがたくさんあるので気にしないで生活している

・仕事の関係や子供の体調によって、自分自身の外来受信が出来ない時がまれにあり、薬が切れてしまう事があった

・不十分な医療体制、専門医

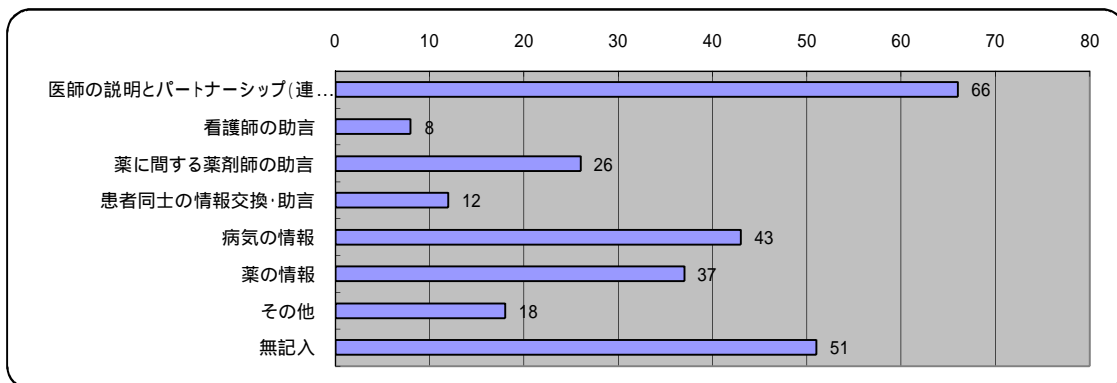
・病気についての正しい情報が届いていない

・ピークフロー測定が何の為にするのか良く知らない。医師が治療に取り入れていない

・自分の不注意

- ・「自己管理」とは医師の指示に従って飲み薬、塗り薬を守っている事でしょうか？「原因がわからない」と言われている私には特別な管理はしていません
- ・ピークフローは入院中しかやっていない
- ・毎日することが面倒になって、段々いいかげんになる
- ・症状に対する考えが甘い？
- ・穀類全てを極力摂取しない様に言われているので、体のバランスも崩れ、多少ならと自己判断で食べてしまう事がある為
- ・アレルギーが不明
- ・悪くなると慌てて病院にかかる。良くなると放っておいてしまう
- ・時間に追われているが、出来る範囲の事をする
- ・調子が良くなると気が緩む。性格の問題？
- ・第三者からの誤った情報によって惑わされる。それにより医師の指導に従わない事がある

設問4. うまく自己管理ができるには何が重要だと思いますか(複数回答可)



- その他
- ・抗ヒスタミン新薬の脳機能への影響などの情報があまり(長期投与)得られていません。東京新聞2/初週の記事で新薬、副作用について詳しく知りました
 - ・日本アレルギー友の会
 - ・モニタリングシステム(第三者でも良いが)
 - ・自分でも勉強し研究する事。体質は個々で異なっているから
 - ・学校や園の協力
 - ・患者の正しい知識
 - ・患者同士の標準治療に基づいた情報交換
 - ・薬の詳しい情報
 - ・それぞれの患者にとって実行しやすい方法による自己管理のすすめ。例:薬を使う回数、吸入ステロイドのデバイス、重点的指導など
 - ・自分の意志
 - ・どこに専門医師の方がいらっしゃるか情報が必要。インターネットで調べられると便利ですが...。名古屋にいる息子も受信できるようになりますから
 - ・アレルギーの特定
 - ・ストレスを溜めない、アレルギーが出ても気にしない。脳内環境が大いにアレルギーに関係がある事が自己管理の中で少しずつ判明して来ているが(改善されているという意味)どうしてアレルギー反応が出てしまい、何が原因かが様々な医学的検査では出てこない。従って自己改善を要に進めるしかないと思っている
 - ・ゆっくりとした時間
 - ・薬の塗り方等のきめ細やかな指導がない
 - ・薬剤師の学習が必要。お話に出たような間違っただ話をしないように
 - ・薬は医師が説明してくれる。現在担当外の課にかかっている時は全て内容を話しておく
 - ・医師による患者の心配・疑問を解消される事
 - ・ピークフロー値表の配布、経口ステロイド剤をもらうたびに表提出。もちろん自己管理に尽きる。その為には怖さと現状、外からの圧力もちょっと必要(特に私の様な怠け者には...)
 - ・今日のような最近の情報
 - ・疾病に対してポジティブになるべく指導し、共に闘ってくれる事
 - ・本人の知識